

ダメ出しされても「AIのせい」
にできる・・・「お～いお茶」
が商品デザイン数百案をAIに任
せた「納期短縮」以上の効能

学籍番号22161280 阿部 航大

デザイン分野 でのAIイノベ ーション

- 近年、生成AIの活用は顧客管理やプロモーションなど様々な領域で広がっている。

- パッケージデザインもそのひとつ



「お～いお茶 カテキン緑茶」シリーズのパッケージ（画像＝プレスリリースより）

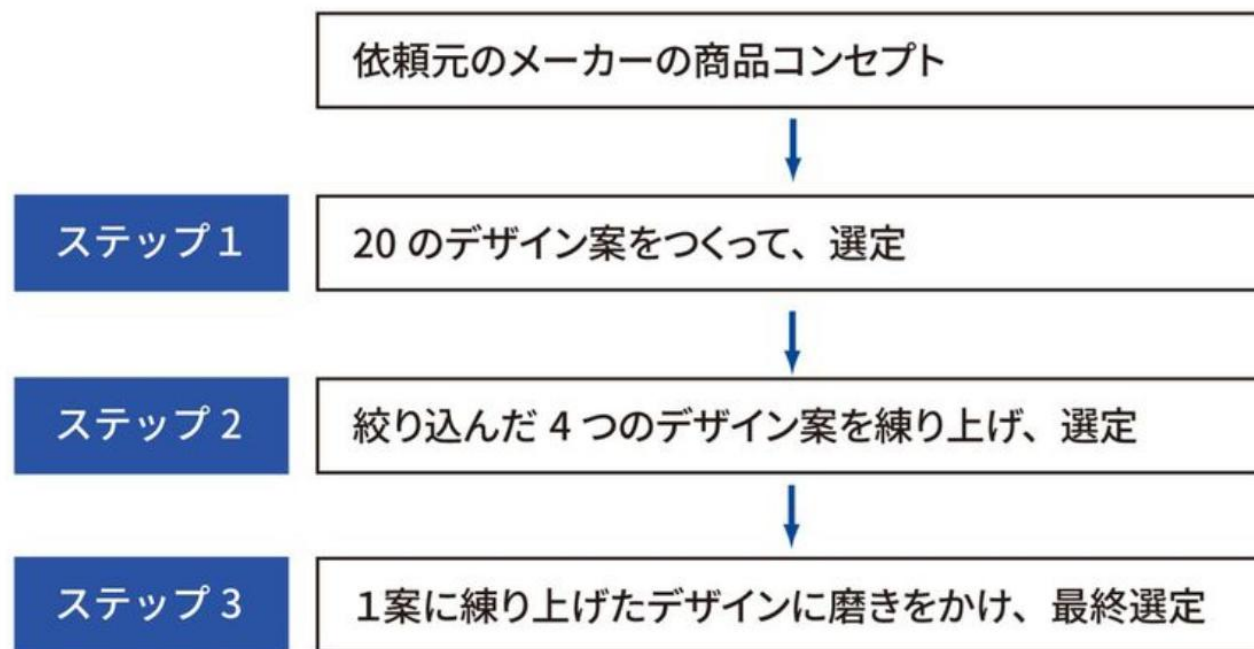
デザイン生成と評価の 2つの機能

- デザイン画像の生成には生成AIの技術、デザイン評価にはディープラーニングの技術が用いられている。

パッケージデザインの作り方

- 一般的な作り方・・・デザイン案を何度も修正し、練り上げていく。各ステップでデザインの「制作→選定」が行われ、ステップが進むにつれてデザイン案は絞り込まれ、磨き上げられていく。

図表1 パッケージ・デザイン会社の制作プロセス



AI導入で何が変わったのか

デザイン生成にAIを導入することによって、デザイン案の数も多くなる。デザイン評価のAIを使えばアンケートなどの市場調査を行わなくとも客観的評価がすぐに手に入る。

結果 2～3ヶ月を要していたプロセスの期間が、3～1週間にまで短縮されることになった。

その他の優れている点

- 人間よりはるかに短時間でデザイン案を作成できる。
- 人間が作るものよりもはるかに幅の広がったデザイン案から絞り込みをかけることができる。
- AIがつくったデザイン案であれば「この案は変だ」と指摘しても誰も傷つかず、気をつかって言葉を選ぶ必要もない。



文字で入力された指示からAIが「叩き台」となる多様なデザインを生成（上2段）。それを参考に、人間のデザイナーがより現実的なデザイン案を作っていく。（画像＝プレスリリースより）

感想

- 今後は生成AI をうまく使える企業が優位に立てるようになってくるのだと感じた。デザイナーの仕事が生成AIに奪われてしまうということも考えられるが作業効率、完成度の高さなどをみると仕方がないと思った。

コメント



将棋などでのAIの進化とその利活用に似ている。「ありえない」というアイデアを無邪気に提案してくる。本当にありえないものもあれば、人間の良くも悪くも経験蓄積からくるバイアスによる思考の狭さを無視する。そこに新しい考えの原石もあるし、機械が作ったものだから気兼ねしなくて大丈夫。



お〜いお茶は包装にある俳句が良くて、つい読んでしまうのですが。AIにこれは引き継げますかね。